

経営比較分析表（平成30年度決算）

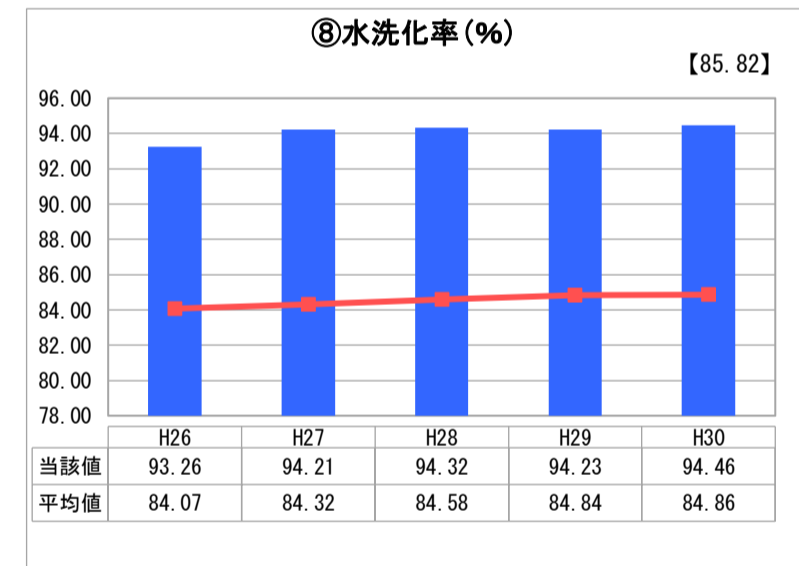
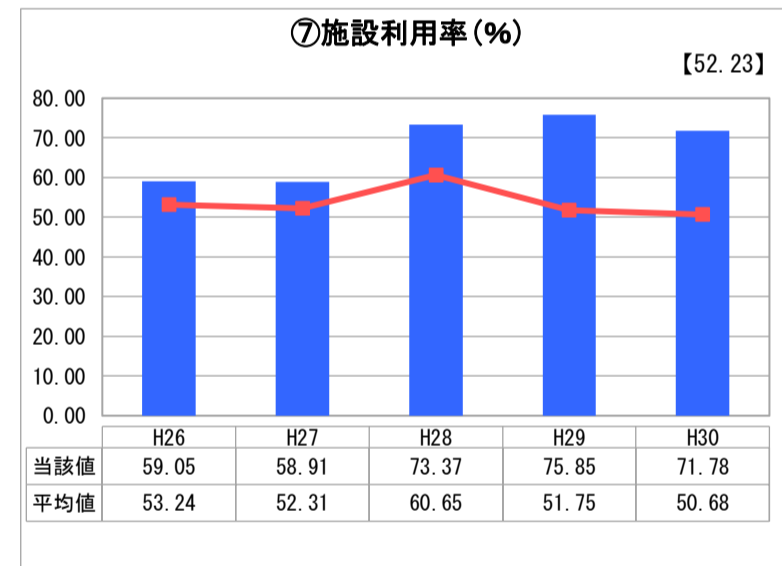
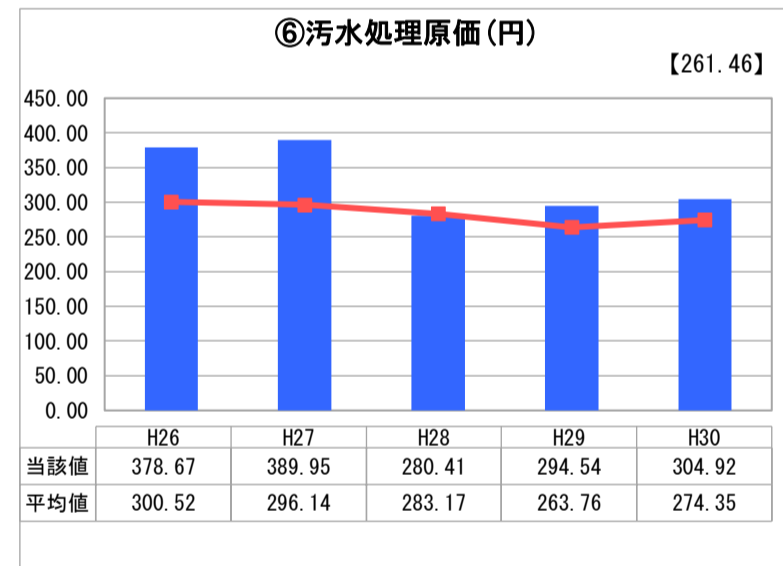
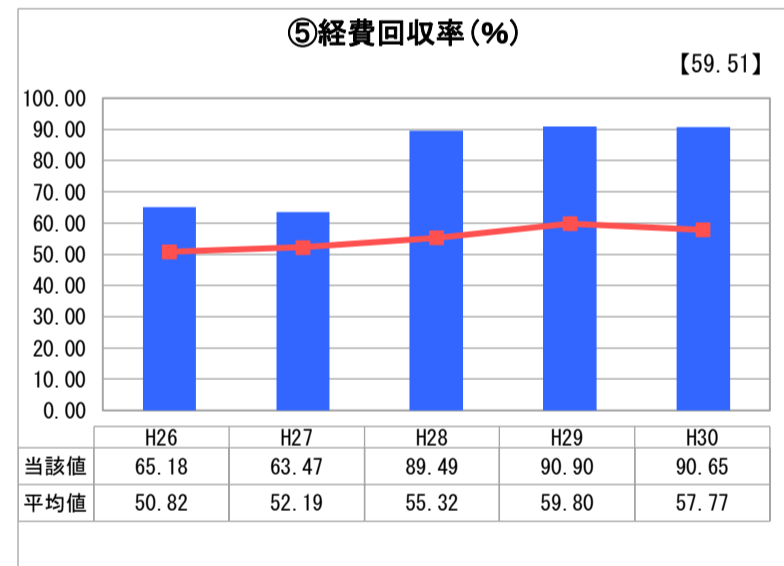
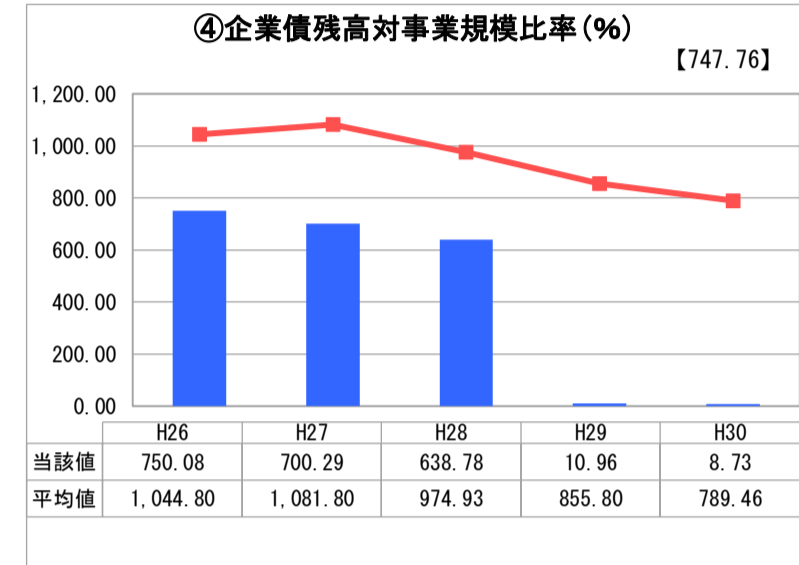
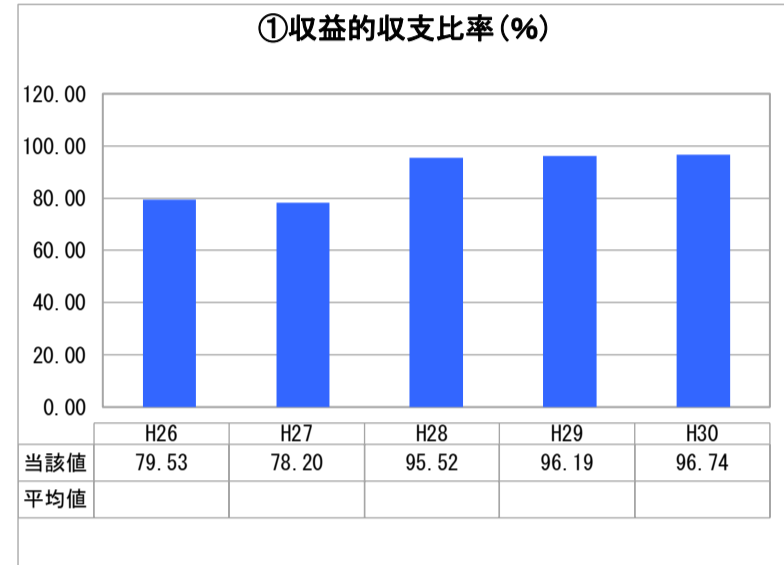
福井県 大野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	19.77	55.48	4,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,519	872.43	38.42
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,574	4.23	1,554.14

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、平成29年度、平成30年度に一部処理区で使用料金改定を行ったこともあり、改善傾向にある。しかし、比率が100%未満であることから、今後も使用料金の見直しや費用削減など経営改善に向けた取り組みを行っていく。

④平成28年度と平成29年度に大きな差があるのは、算定基準の変更があったためである。

⑤平成30年度に料金改定があり使用料収入が増えたものの、増収を上回る汚水処理費がかかり、前年度比は微減となった。

⑥汚水処理原価については、昨年度に比べ上昇した。この要因としては、人口減少による年間有収水量の減少及び施設の老朽化による維持管理費の上昇が要因と考えられる。そのため、必要に応じ施設の更新を行うなど維持管理費の削減に努める。

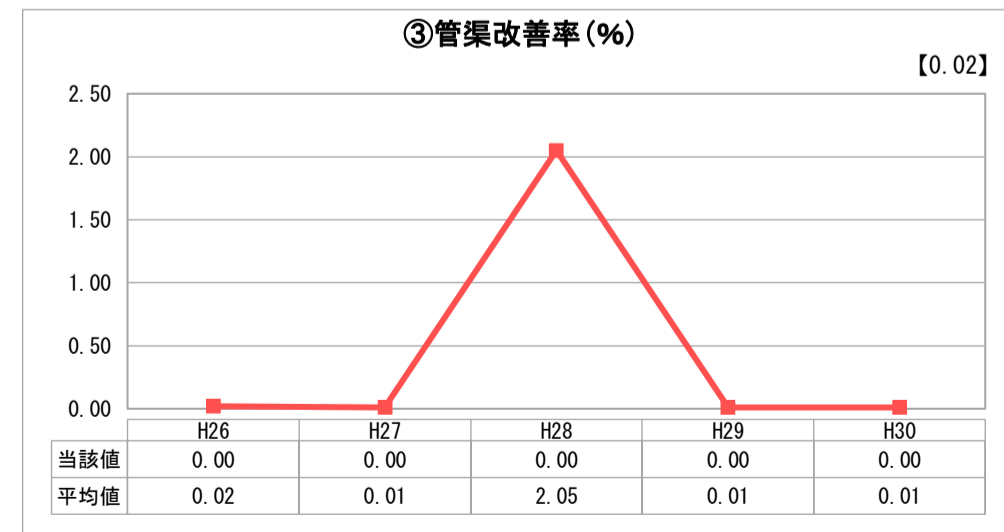
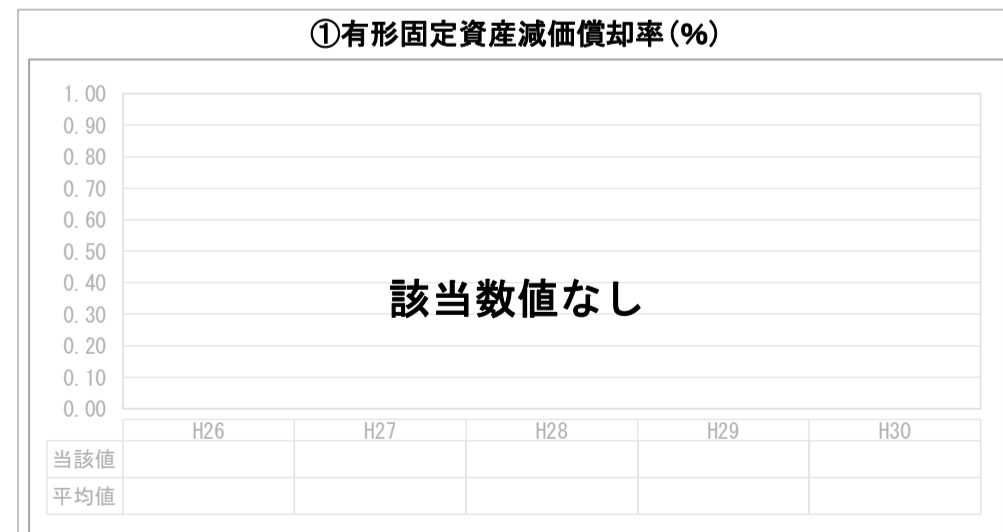
⑦施設利用率は類似団体平均値より高くなっているが、人口減少の影響により、将来的には減少していくことが想定される。また、各処理施設単位で見ると施設利用率にばらつきがあるので、適宜将来を見据え、各施設に合わせた計画を策定していく。

⑧水洗化率は、年々少しずつ増加しており、類似団体平均値を大きく上回っている。これは、処理施設の建設当時から地元が中心となって事業を進めており、地元の積極的な未接続者への加入促進があったためであると考えられる。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水は、昭和63年に事業を着手し、平成3年から順次、共用開始しているため耐用年数に問題はない。しかし、今後は、施設の更なる老朽化により、修繕費等の維持管理費の増加が予想される。そのため平成28年度から平成30年度にかけ全処理区で機能診断を行い、施設の状況を調査した。平成31年度は、実施した機能診断から最適整備構想を策定する。今後は、策定された最適整備構想を基に施設の適切な維持管理に努めていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

施設の老朽化に伴う修繕費の増加や人口減少による使用料収入の減少を考えると、今後はより厳しい経営状況になることが想定される。

そのような状況のなかで、将来の維持管理や更新計画を盛り込んだ最適整備計画の基、長期的かつ広い視野を持ち、経営に努めていく必要がある。これらのことを踏まえ、定期的な使用料金改定により健全運営を行っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。